社研の思い出　～出会いと再会～

森　昭二
（教育・昭和６１年３月卒・多度津町立豊原小学校）

人生の素敵な出会いは？と聞かれたら、それは「再会」と答えたいです。

私の大学時代は、社研に始まり、社研に終わるといっても過言ではありませんでした。社研で学んだ学業、人間関係、酒の飲み方等々は、今の生き方の基を築いています。その基には、大学の先生方、先輩、同級生、後輩という人との出会いがあります。大学時代は、その濃密な人間関係が当たり前にあり、続くものだと信じていました。しかし、時にその出会いは途切れることがあります。

教職に就いて３年目、徳島県から転校生が私のクラスにやってきました。その子に関する書類を手にしたとき、担任欄にくぎ付けになりました。そこには、社研の先輩、それも酒の飲み方を教えてくれた先輩の名前があったのです。５年以上も連絡をしていない先輩の名前だったのです。すぐさま、転出先の学校に電話をかけ、先輩の声を聞きました。懐かしさ以上に、再会の嬉しさがありました。当然、先輩も突然の電話に驚き、会話の途中からは讃岐弁に戻って話を続けました。再会は、お互いを元気づけ、勇気づける力があることを実感しました。

ある研究会では、先輩の研究発表なのに個人的な再会の喜びをアピールしたくて意見を述べました。逆に、別の研究発表会では、私の発表に対してその先輩から、先輩らしい厳しい意見を受けました。また、地元の研究組織には、年の離れた社研の後輩が所属しています。その後輩とは「再会」ではないのですが、そこに「再会」の匂いを感じています。それは、同じ研究室で学んだ人は、同じ空気感をもっていると思っているからでしょう。

研究室での若いころの出会いは、年を取っての再会で充実感をえます。勿論、出会いが無ければ再会もありません。そうした出会いと再会の感動の原点が、大学時代の研究室活動にあったと思います。今後も、社研で培った再会を大切にしていきたいです。そして、社研の皆様のご活躍を祈念しております。